舞踊の大衆化の為にする大学教育の役割

鄭　淑姫（国立安東大学校）

Ⅰ．序　　論

1.研究の必要性

我が国へ近代舞踊が導入されてから70余年になる。人間の身体的・情緒的・社会的発達と創意的活動として人間形成に寄与している舞踊の特性と役割が大学で公演為主の教育のみを強調して理論的に定立されてないのである。舞踊教育のほとんどが大学で教えられている舞踊の教科課程により，これを通じて大学は舞踊手，舞踊教育者，理論家，按舞家等を同時に進出させるため専門性が稀薄になっている。舞踊(学)科の教授の大部分が韓国舞踊，現代舞踊，バレエ等，実技を中心にする専攻が区分されているため学生達もその分類にしたがって実技の専攻に集約されていて舞踊に関する全般的な教育より構造的に実技教育に置重されている実情である。大衆文化としての舞踊が福祉社会具現の為の一環でその役割を課す為にはなによりも大学の教育目標による教科課程を検討，分析する必要がある。

2.研究方法

本研究の調査対象に関した資料は質的に文献資料で内容分析に適当な所で適切に使用した。特に量的資料は大学舞踊教育の教科課程に関する統計資料である。本研究の資料を収集する為の過程は主として国内の図書館及び舞踊関連機関で所蔵している文献資料を収集した。

Ⅱ．大学舞踊教育の実態分析

最近大学舞踊の特徴は量的成長である。1963年梨花女子大学校の体育大学に舞踊学科が最初に開設した以来1994年まで24個の大学と７個の専門大学に舞踊（学）科が正式に設置されて，全体の舞踊（学）科の学生数5,189名に至る。さらにこの開設年度をみると，24個の大学の中で13個４年制大学と７個の専門大学が80年代以後開設されたことを考えてみると80年代以後舞踊学科の量的成長が明らかである(教育統計年鑑，1995)。これは舞踊に対する社会的需要が多くなったと同時に大学舞踊の重要性が浮刻されている事を間接的に説明している。現在33個の４年制大学と10個の専門大学を含めると43個の大学に舞踊学科が設置されている。今後舞踊学科は何個校か増加する趨勢である。本章では今までの研究にもとづいて舞踊（学）科の教育目標と教科課程そして舞踊教育と関連のある諸般事項を検討し，大学舞踊が社会的に要求する人材養成に中枢的な役割をするかを評価しようとし，また大学の教育実態を検討して我が国の舞踊教育の問題点を指摘しようとする。24個の大学の舞踊学科で開設されている科目を調査した。４年制大学と専門大学の実技科目と理論科目の構成比率を調査したその研究結果によると４年制大学の場合，実技科目が47%，理論科目が53%で実技より理論科目の比率がもっと高くて専門大学は実技科目が68%，理論科目が32%で理論より実技科目にもっと置重していることがわかる。４年制大学の理論科目に対する構成比率は基礎理論(28%)，舞台構成(13%)，舞踊音楽(10%)，舞踊創作(9%)，舞踊科学(9%)，舞踊教育(8%)，体育(7%)，其の他(7%)，民俗学(6%)，表記法(2%)，心理学(1%)の順で，実技科目の構成比率は韓国舞踊・現代舞踊・バレエ(59%)，其の他実技(18%)，舞踊創作(10%)，ワークショップ(6%)，体育(4%)，舞踊音楽(2%)，レパトリ(1%)の順にあらわれた。専門大学の理論科目に対する構成比率は基礎理論(37%)，舞踊創作(13%)，舞台構成(11%)，舞踊音楽(10%)，体育(10%)，舞踊教育(9%)，舞踊科学(5%)，其の他(10%)，民俗学(2%)の順で，実技科目の構成比率は韓国舞踊・現代舞踊・バレエ(43%)，其の他実技(18%)，舞踊創作(17%)，体育(10%)，舞踊音楽(6%)，其の他(1%)の順にあらわれた。結局，４年制大学と専門大学の教科課程は理論科目と実技科目の比率だけに差違があるだけで教科目はほとんどが同じである。以上，我が国の大学舞踊教育の実態を１次資料を通じて分析した。大学は舞踊の大衆化の為にする各大学なりの独特な教育目標を立ててこれにあう教科課程を設定すべきである。例えば，平生教育機関と文化センターの趣味舞踊，職場と団体の団合の為の祝祭舞踊，純粋社交目的の社交舞踊，大衆舞踊と伝統舞踊の底辺拡大の為の教科目を設定することである。そして舞踊芸術分野の専門家の養成の為に舞踊手と按舞家以外にも舞踊照明，舞踊演出，舞踊音楽，舞踊衣裳，舞踊台本，舞踊評論等，公演と関連のある専門人を養成する教科目の選定が必須的である。

Ⅲ．結　　論

本研究の目的は大衆化の為にする大学教育の役割を調べてその方案を模索することである。これらの資料分析を通じて得た結論は次のようである。

第一，大学舞踊教育の現実態に関しては教育目標を４年制の大学と専門大学の間には教育目標において別に差違がなかったのである。第二，専門大学が４年制の大学とは違って中堅職業人の養成をその目的とする点を勘案すれば各大学はより合理的な教育目標の設定に努力することである。第三，教育目標に従う教科課程の場合は同一の科目を大学で少しずつ違う名称で使用していて，類似科目が教科課程に編成されていた。これは教育目標ばかりでなく教科課程にも大学なりの独自性が必要であることを示唆している。従って舞踊の大衆化の為にする大学教育の役割は大学が社会で要求される専門人力を養成する為に段階的な指導体系に対する再整備が必要であり，教育目標を立ててこれにあう教科課程を設定することである。